

内外水統合型多段階浸水想定図・水害リスクマップ 見方・活用例

令和8年6月
国土交通省 四国地方整備局
那賀川河川事務所 調査課

・国や県では、洪水時の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模の洪水と計画規模の洪水を対象に「浸水想定区域図」を作成・公表してきました。

・令和4年度に流域治水の取組を推進するため、高頻度～中低頻度まで複数規模の洪水を対象とし、「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表しました。

・今回の公表では、浸水実績や地域の実感に近いリスク情報となるよう、解析対象の河川として中小河川・水路等（内水氾濫）を追加した**内外水統合型**の「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成しました。

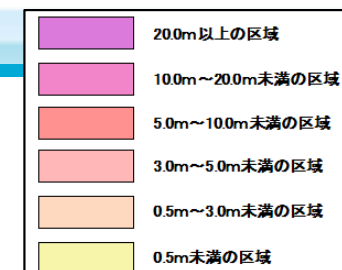
■関連する水害リスク情報の公表履歴

公表	作成	公表図	対象河川(区間)	洪水の規模	主たる活用方法
H28	国	洪水浸水想定区域図	大臣管理区間	想定最大規模 計画規模(1/100)	避難行動
H30	県	洪水浸水想定区域図	指定区間	想定最大規模 計画規模(1/100)	避難行動
・ ・ ・	市町	洪水ハザードマップ	大臣管理区間、指定区間等	想定最大規模	避難行動
R4	国	多段階浸水想定図/水害リスクマップ	大臣管理区間	想定最大規模 中低頻度～高頻度で発生する規模	防災まちづくり 企業立地選択
R6	県	洪水浸水想定区域図	中小河川	想定最大規模	避難行動
今回 R8	国	内外水統合型 多段階浸水想定図/水害リスクマップ	大臣管理区間、 中小河川、水路など	想定最大規模 中低頻度～高頻度で発生する規模 ※気候変動を考慮	防災まちづくり 企業立地選択
公表 予定	国	洪水浸水想定区域図	大臣管理区間	計画規模(1/100) ※気候変動を考慮	避難行動

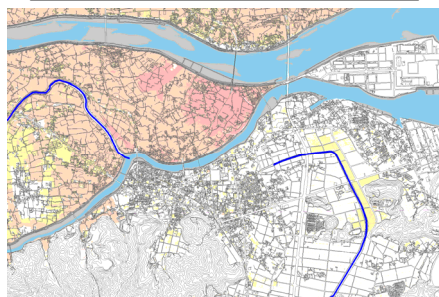
対象河川
を追加！

■多段階浸水想定図

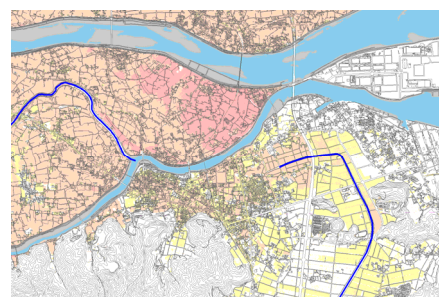
発生頻度ごとに浸水範囲と浸水深を示した図です。



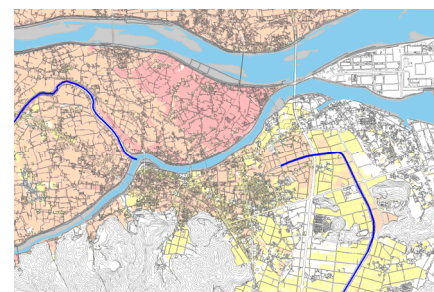
1/10(高頻度)



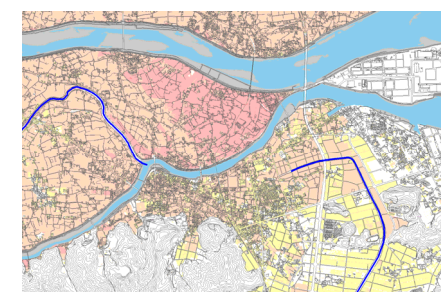
1/30(中高頻度)



1/50(中頻度)

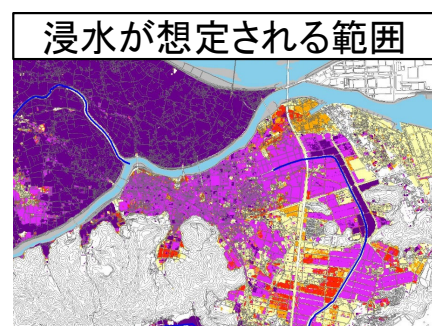


1/100(中低頻度)

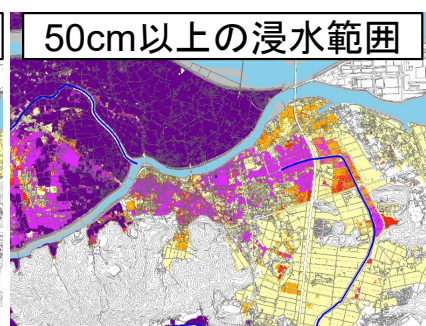


■水害リスクマップ

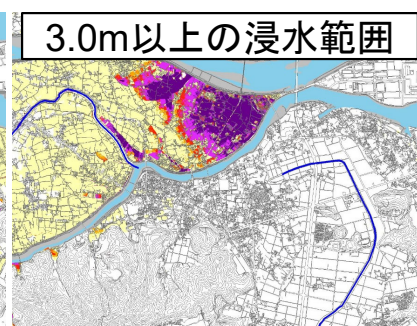
多段階浸水想定図を重ね合わせ、浸水範囲と浸水頻度の関係性を図示した図です。



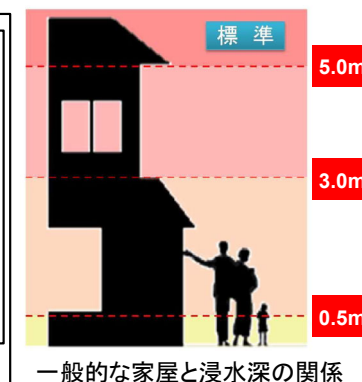
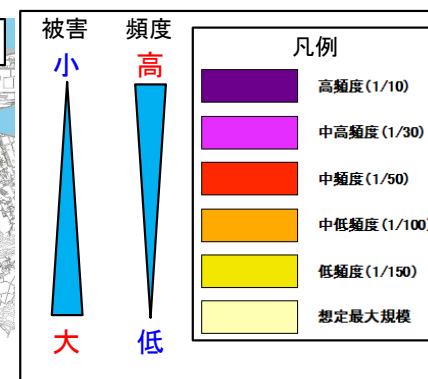
浸水の発生しやすさ
※0.1m以上の浸水範囲



床上浸水相当以上の
発生しやすさ

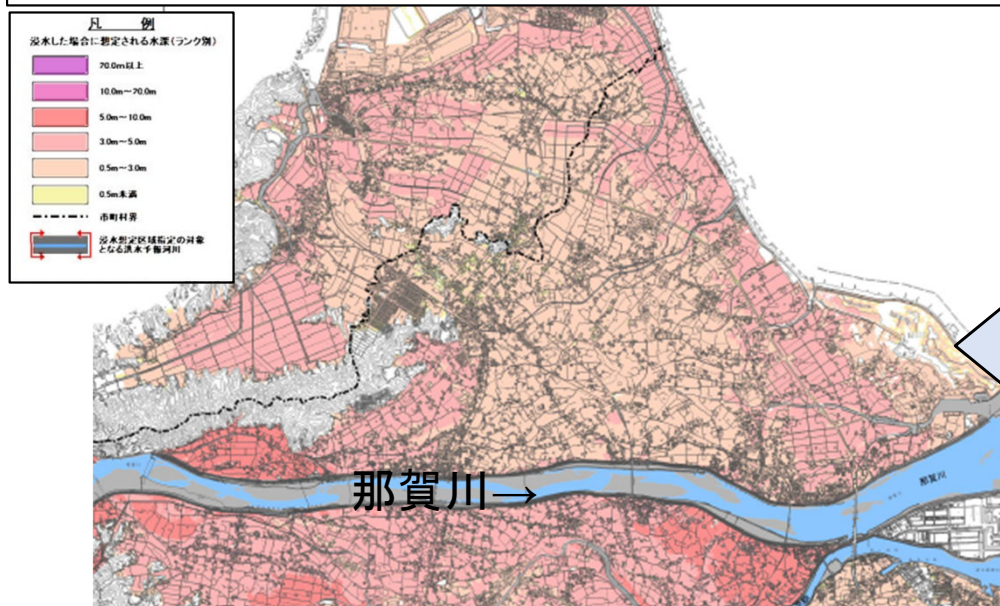


1階軒下浸水相当以上の
発生しやすさ



- ・ 降雨の規模ごとに**浸水範囲**と**浸水深**を確認できるため、主に**土地利用・避難行動の検討**に活用されます。
- ・ 目的に応じて洪水浸水想定区域図と使い分けることが重要です。

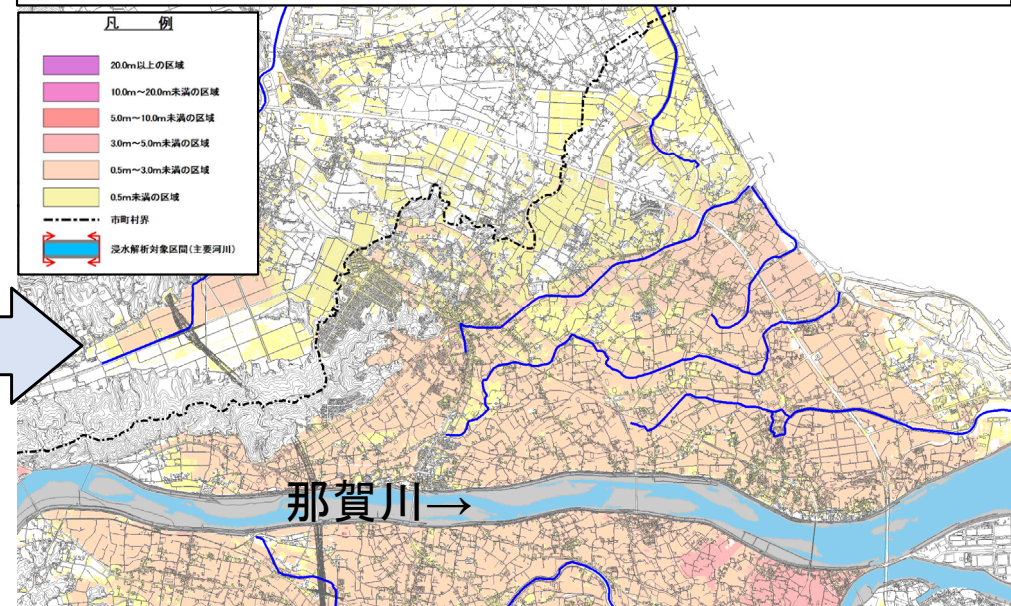
洪水浸水想定区域図(想定最大規模)



想定し得る最大規模の洪水による**浸水範囲**と**浸水深**

- ・ 大規模洪水に対するリスク分析、避難計画立案
- ・ 避難所や用配慮者施設の立地選択

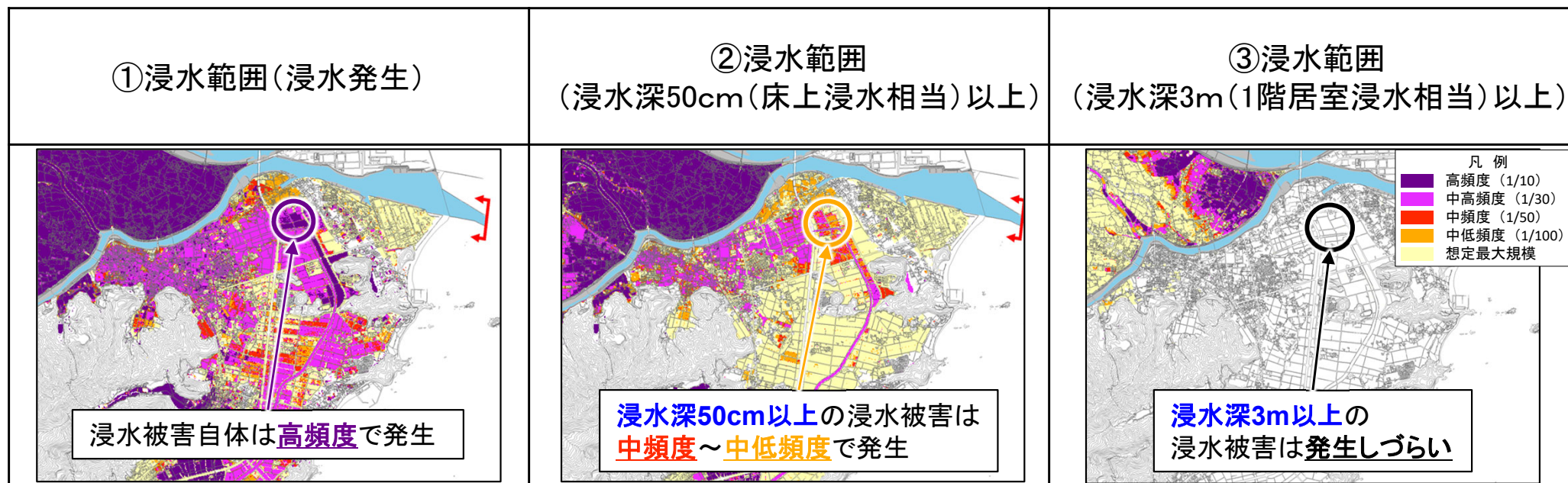
多段階浸水想定図(1/10)



高頻度(1/10)の洪水による**浸水範囲**と**浸水深**

- ・ 中小規模洪水に対するリスク分析、避難計画立案
- ・ 土のう袋の準備など、小規模洪水に対する備え

- ・水害リスクマップでは、3つの浸水深ごとに浸水被害が発生する**浸水範囲**と**浸水頻度**を把握できます。
- ・主に土地利用や企業立地選択といった**防災まちづくり**の検討に活用できます。



浸水深ごとの使い分け(例)

- ①浸水範囲(浸水発生)
 - ・浸水頻度の高いエリアへの住居・施設の立地を避ける
 - ・建物内の浸水を防ぐための止水壁を設置する
 - ・住宅や車両等の保険を見直す
 - ・室外機や電源等の設置箇所を高所に移設する
- ②浸水範囲 (浸水深50cm(床上浸水相当)以上)
 - ・事業継続に必要な資材や資産などを2階以上に保管する
- ③浸水範囲 (浸水深3m(1階居室浸水相当)以上)
 - ・1階をピロティ構造とし、寝室や居室は2階以上に配置する



保険の見直し



ピロティ構造による浸水対策

よくある質問

Q1: 高頻度(1/10)で着色されているエリアは、10年に1回必ず浸水が発生する？

A1: 各頻度(1/〇〇)は1年間で浸水が発生する確率を表しています。
発生する確率は毎年1/10であるため、10年間で必ず1回発生するわけではありません。
また、1年間で複数回発生する可能性もゼロではありません。

例)

2026年	2027年	2028年	...	20XX年
1/10	1/10	1/10	1/10	1/10

Q2: 平成26年8月に発生した洪水はどのくらいの頻度(規模)だった？

A2: 流域全体の評価では、およそ1/30規模の洪水でした。
浸水面積は324ha、床上浸水543戸、床下浸水221戸の被害が発生し、
那賀川水系で戦後最大規模の洪水となりました。



平成26年8月洪水による那賀川流域の
氾濫被害(阿南市上大野町持井地区)

Q3: 多段階浸水想定図や水害リスクマップは自治体のハザードマップにも反映される？

A3: 洪水浸水想定区域図(H28)と異なり「水防法」に基づく図面では無いため、
ハザードマップへの反映義務はありません。反映の有無は各自治体の判断に委
ねられています。



よくある質問

Q4: 私の住んでいるエリアはこれまで浸水が発生したことがないが、
高頻度の着色がある。解析結果は正しいのか？

A4: Q1に記載の通り、各頻度は必ずしも実績に対応する指標ではございません。
また、気候変動の影響により、出水の激甚化、頻発化が懸念されています。
過去の経験によらず、リスクを正しく認識し、適切な対応行動をとりましょう。



Q5: どの規模も着色がない場合は浸水リスクはないと思って大丈夫？

A5: 一部の下水道や極小規模の水路網等は解析対象に含まれておらず、
着色がないからといって、浸水リスクがないわけではありません。
あくまでシミュレーション結果であることにご留意いただき、出来ることから備え始めましょう。

Q6: 周囲と高さが同じなのに、自宅周辺だけ高リスクになっているのはなぜ？

A6: 地盤高は平成21年度の測量結果をベースとし、大規模な地形改変が見られた箇所について、部分的に最新の測量結果に置き換えているため、測量年度や宅地造成の規模によっては、図面に考慮できていない場合があります。

よくある質問

Q7: 徳島県や阿南市が公表している浸水想定と何が違いますか。

A7: 徳島県や阿南市が公表している浸水想定図は、令和3年5月に改正された水防法に基づき、想定し得る最大規模の降雨を外力とし、県内の中小河川を対象に別箇に氾濫解析を行っています。本マップでは、1/10～1/100(高頻度から中低頻度)の降雨を外力とし、那賀川流域全体(国の直轄管理河川および自治体管理の河川、下水道等)を一体的に解析・図示したものとなります。また、解析上の降雨条件(解析上の雨の降り方や量)も異なる場合があります。

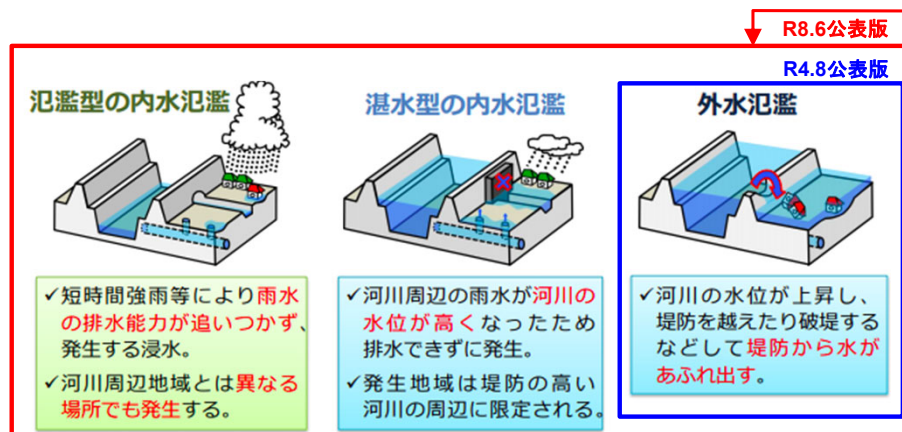
Q8: 浸水が想定される地域では、国はどのような対策を取るのですか。

A8: 堤防整備や河道掘削などのハード対策に加えて、リスク情報の公表や出前講座を通じた防災教育など、ソフト対策を進めます。また、自治体や企業など、流域内のあらゆる関係者と協働し、貯留施設の整備や土地利用の規制、ダムやため池の事前放流といった治水対策を行う、「流域治水」の取り組みを進めて参ります。



【参考】解析条件等

項目	洪水浸水想定区域図			多段階浸水想定図・水害リスクマップ	
	H28.5(国) 公表版	H30(県) 公表版	R6.5(県) 公表版	R4.8公表版	R8.6公表版
把握できる情報	想定し得る最大の浸水範囲、浸水深(m)			・確率規模に応じた浸水範囲、浸水深(m) ・浸水頻度(浸水しやすさ)	
降雨規模	想定最大規模			多段階の確率規模 (1/10～1/100)	
主な活用方法	避難計画の検討等			防災まちづくり、住まい方の工夫、 BCP(事業継続計画)の策定への活用等	
対象河川の分類 ※()内は図面上での表現	大河川 (主要河川)		中小河川 (その他河川)	大河川 (主要河川)	大河川＋中小河川＋水路等 (主要河川＋その他河川＋下水道等)
河川	大臣管理区間	指定区間、県管理河川		大臣管理区間	大臣管理＋県管理＋市町管理河川
氾濫形態	外水氾濫のみ			外水氾濫のみ	外水氾濫＋内水氾濫(氾濫型・湛水型)
地盤高データ	H21計測の地盤高データをもとに作成			洪水浸水想定区域図で作成したデータをベースに、比較的大きな 地形改変があった箇所については、最新の計測データに差し替えて作成	



出典：気象庁「避難勧告等に関する諸情報（洪水・浸水）の技術について」

氾濫形態の概念図

対象河川の分類定義

分類名	河川規模	定義
主要河川	大河川	水防法に基づく洪水浸水想定区域図を作成している河川
その他河川	中小河川	主要河川以外の一級河川・二級河川
下水道等	水路等	上記以外の準用河川、普通河川、農業用排水路、都市下水道等